

目標管理型の政策評価に係る評価書の標準様式

別紙2

(環境省23-25)

施策名	目標5-5 自然とのふれあいの推進					
施策の概要	豊かな自然とのふれあいや休養などの国民のニーズに応えるため、持続可能な自然資源の保全を図りつつ、安全で快適な自然とのふれあいの場の提供やふれあい活動をサポートする人材の育成を行う。					
達成すべき目標	安全で快適な自然とのふれあいの場を提供しつつ、ふれあい活動をサポートする人材を育成することでエコツーリズムを推進し、自然とのふれあいの質の向上を図る。また、貴重な自然資源である温泉の保護と適正な利用を図る。					
施策の予算額・執行額等	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	
	予算の状況(千円)	当初予算(a)	11,214,137	10,935,298	10,514,342	8,492,023
		補正予算(b)	4,095,074	0	500,000	
		繰り越し等(c)	△ 2,242,887	2,418,469	△ 184,077	
		合計(a+b+c)	13,066,324	13,353,767	10,830,265	
	執行額(千円)	11,946,669	12,394,797	10,103,170		
施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	・生物多様性国家戦略2010(平成22年3月16日閣議決定)第2部第2章第3節3「自然とのふれあい活動の推進」「自然とのふれあいの場の提供」					

測定指標	1 自然とのふれあい場である自然公園等の利用者の推移(千人)	基準値	実績値					目標値
		年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	年度
		-	916,845	894,798	897,846	886,844	集計中	-
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	-	-
	2 エコツーリズム推進法の規定に基づく全体構想認定数	基準	施策の進捗状況(実績)					目標
		20年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
		0	-	-	1	1	1	3
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	-	-
	3 温泉利用の宿泊施設利用人数の推移(千人)	基準	施策の進捗状況(実績)					目標
		年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	年度
-		135,873	132,677	127,930	124,925	集計中	-	
年度ごとの目標値		-	-	-	-	-	-	

施策に関する評価結果	目標の達成状況	・自然とのふれあい活動をサポートする人材の育成等によりエコツーリズムを推進した。また、全国30の国立公園等における自然とのふれあいの推進を図るため、安全かつ快適に自然を体験できるよう公園利用施設の新設及び老朽化施設の更新や、自然環境保全のための施設の整備を実施した。このほか、自然資源である温泉の保護と適正な利用を図った。
	目標期間終了時点の総括	<p>【これまでの成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然とのふれあいに関する情報の提供や人材の育成、エコツーリズムの総合的な推進(地域への技術的助言・情報収集・広報活動等)により、自然の保全と適正利用の推進を図った。また、全国30の国立公園等において、公園利用施設の新設・更新や自然環境保全のための施設の整備を実施するとともに、都道府県等が行う国定公園等の公園利用施設の整備に対して支援を行い、自然とのふれあいの場の提供を推進した。このほか、自然資源である温泉の保護と適正な利用を図った。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自然と共生する社会」の実現に資するよう、今後も国民のニーズに的確に応え、自然への理解や大切にすることを目的とした自然ふれあいメニューの拡充やエコツーリズムの推進を図るとともに、安全で快適な国立公園等における公園施設の整備や温泉の適正利用を図っていく。

学識経験を有する者の知見の活用	-
-----------------	---

政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	-
---------------------------	---

担当部局名	自然ふれあい推進室 自然環境整備担当参事官室	作成責任者名	堀上 勝 大庭 一夫	政策評価実施時期	平成24年6月
-------	---------------------------	--------	---------------	----------	---------